

カブトムシの飼育 伊達市立富野幼稚園（福島県伊達市）

【5歳児】

驚きと感動を与えた環境構成の工夫<教材>

両面から見える観察ケース

保護者が作った両面から見える観察ケースにさなぎを入れる。
幼児がいつでも見られる場所に設定する。

カブトムシの羽、しわしわになってる

白い羽してるー

- ・虫に関心の強いA児は特に集中して観察する。
- ・図鑑での知識も豊富で知っていることを次々に友達に話し、満足している。

(数日後)

- ・土の上に出てきたカブトムシを発見した幼児たちが喜ぶ。
- ・A児の図鑑の上での知識が観察を通して実証された喜びを味わう。

< A児 >

「かぶと虫はね、今、羽を乾かしているんだよ」
「茶色になって、それから黒色になるんだよ」
「明日になると成虫になるよ」



< 考 察 >

- ・実際に見える観察ケースは魅力的で、幼児の好奇心をかき立てたり、自ら繰り返しかかわりがもてたりする場でもあった。
- ・図鑑での知識が、実際に本物となって自分の目の前に現れた時の驚きと感動は、幼児一人一人の心に深く刻まれることになった。

みんなで作ったカブトムシの家

- ・室内にカブトムシを発見する。
- ・カブトムシの幼虫が入ったケースから出てきたことに気付く。
- ・「他の幼虫もカブトムシになっているかもしれない」ということで、土の中から掘ってあげることにする。
- ・これがきっかけになって、戸外遊びを好まず、自然に目を向けなかったB児が自然にも目を向けるようになった。

あっ、カブトムシになってる

土から出してあげよう



保育者 どのように飼うとよいのか、考えるきっかけとなるように「何を食べるのかな?」と、問いかける。

C児「うちにいっぱいいるから知ってるよ。
ゼリー食べるんだよ」
D児 図鑑を持ってきて調べ、「きゅうりや
すいかも食べるんだって」と教える。
C児「土をいれなくっちゃー!」
B児「先生、木は?」

土を入れてあげよう

木も入れてあげよう



- ・この日は細い木しか見つからなかった。翌日、B児は家から木を持って来た。



みどころ

子どもたちの興味や欲求に応える工夫をされた環境や教材は、すぐに子どもたちの生活の一部になったり遊びに取り込まれたりします。この事例のように、厚さが薄くて両面から土の中の様子が見える観察ケースは、子どもたちの興味を引き、カブトムシへの関心はより高くなりました。そして、手作りという刺激も子どもたちに生きて、興味の薄かった子どもが積極的にカブトムシの家つくりのために考えを出し、「木を見つける」という行動につながりました。